# 第17講　江戸時代Ⅵ

## 1　欧米列強の接近

### ①ロシア船の接近と幕府の対応

17世紀にイギリスでピューリタン〔清教徒(せいきょうと)〕革命・名誉革命，18世紀後半にアメリカ独立革命・フランス革命が起き，皇帝(ツァーリ)の専制が続くロシアはシベリア開発に意欲をもつなど，世界情勢が変化する中で外国船が日本近海に接近してきた。

1778年　ロシア船，厚岸(あっけし)に来航し通商を要求

☆翌年，松前藩が拒否。

1783年　工藤平助の『赤蝦夷風説考(あかえぞふうせつこう)』

1785年～**最上徳内(もがみとくない)**の北方(ほっぽう)探査（蝦夷地・千島(ちしま)列島）

1791年　林子平の『海国兵談』

**1792年　ロシア使節ラクスマン，根室(ねむろ)に来航し通商を要求**

☆エカチェリーナ2世の使節として，漂流民**大黒屋光太夫(だいこくやこうだゆう)**を送還。

☆**通商要求は拒否**，長崎入港許可証〔＝信牌(しんぱい)〕を与える。

1798年　**近藤重蔵・最上徳内**，択捉島(えとろふとう)を探査

☆「**大日本恵登呂府(えとろふ)**」の標柱を立て，ロシアとの境界線を引く。

☆このころロシア人は択捉島に上陸し，現地のアイヌと交易を行っていた。

**1799年　幕府，東蝦夷地を直轄**

☆居住するアイヌを和人とした。

1800年　八王子千人同心100人を蝦夷地に入植させる

1802年　幕府，蝦夷地奉行を設置（同年，箱館奉行に改称）

**1804年　ロシア使節レザノフ，長崎に来航し通商を要求**

☆アレクサンドル1世の使節として，漂流民津太夫(つだゆう)を送還。

☆**通商要求を拒否**，1806年～07年に“北辺(ほくへん)の紛争”勃発(ぼっぱつ)へ。

**1806年　文化の撫恤令(ぶじゅつれい)**〔薪水(しんすい)給与令〕

**1807年　幕府，西蝦夷地も直轄〔＝全蝦夷地を直轄〕**

☆箱館奉行を移転，**松前奉行**とする。

☆東北諸藩を蝦夷地警護にあたらせた。

**1808年　間宮林蔵(まみやりんぞう)，樺太(からふと)とその対岸を探検し離島(りとう)であることを発見**

☆のちシーボルトにより「**間宮海峡**」が世界に紹介される。

**1811年～ゴローウニン事件**

☆国後島(くなしりとう)でロシア軍艦艦長ゴローウニンを捕縛(ほばく)。

1812年　報復のため，国後沖で北前船(きたまえぶね)商人**高田屋嘉兵衛(たかだやかへえ)**がロシアに拿捕(だほ)される。

**1813年　高田屋嘉兵衛の尽力(じんりょく)で双方の交換が成立し和解**

☆ゴローウニンは帰国後『**日本幽囚記(にほんゆうしゅうき)**』を出版する。

**1821年　伊能忠敬らの『大日本沿海輿地(よち)全図』完成**

**幕府，全蝦夷地を松前藩に還付**

---

## ②イギリス船の接近と幕府の対応

**1808年　フェートン号事件**

☆**イギリス軍艦がオランダ商船を追い長崎に乱入**，オランダ商館員を人質に燃料・食糧を要求し退去。長崎奉行松平康英(やすひで)は引責自刃(じじん)。

1810年　会津藩・白河藩に江戸湾の防備を命じる

1818年　イギリス人ゴルドン，浦賀に来航し通商を要求

1824年　イギリス船常陸国大津浜(おおつはま)・薩摩国宝島(たからじま)上陸事件

**1825年　異国船〔無二念(むにねん)〕打払令**

☆文化の撫恤令を撤回。清・朝鮮・琉球船のみ対象外で，オランダ船も長崎以外では打ち払うこととした。

**1828年　シーボルト事件**

☆**国禁の日本地図もち出し事件**。シーボルトは国外追放，幕府の天文方(てんもんかた)高橋景保(かげやす)は獄死(ごくし)。

**1837年　モリソン号事件**

☆漂流民送還・通商要求の**アメリカ商船**を，相模国浦賀・薩摩国山川(やまがわ)で撃退。

1838年　水戸藩主徳川斉昭(なりあき)，『戊戌封事(ぼじゅつふうじ)』を著す

☆翌年，12代将軍家慶(いえよし)に提出。

**1839年　蛮社(ばんしゃ)の獄(ごく)**

☆モリソン号事件を契機に幕府の対外政策を批判した『**慎機論(しんきろん)**』の**渡辺崋山(かざん)**や『**戊戌(ぼじゅつ)夢物語**』の**高野長英(ちょうえい)**ら**尚歯会(しょうしかい)〔蛮学社中(ばんがくしゃちゅう)〕**メンバーを処罰。

**1840年〜アヘン戦争でイギリスが清を破る（〜42年）**

☆香港(ホンコン)島の割譲(かつじょう)を含む**南京(ナンキン)条約**を締結。

**1842年　天保の薪水給与令**

☆異国船打払令を撤回，漂着した外国船には燃料・食糧を与える。

☆以後オランダ商館長に『別段風説書(べつだんふうせつがき)』も提出させる。

---

## ③列強の開国要求と幕府の対応

1844年　**オランダ国王**ウィレム２世による**開国勧告**

☆翌年，海防掛(かいぼうがかり)の**老中首座阿部正弘(あべまさひろ)**は“祖法”の遵守(じゅんしゅ)を理由に拒否。

1846年　**アメリカ東インド艦隊司令長官ビッドル，浦賀に来航し通商を要求**

☆**アメリカは対清(しん)貿易船・捕鯨船(ほげいせん)の寄港地として日本の開国を切望(せつぼう)**したが，幕府は拒否。

☆1848年にはアメリカがカリフォルニアを奪い領土が太平洋岸に到達すると，清との貿易が一層さかんになった。

**1853年　アメリカ東インド艦隊司令長官ペリー，琉球王国の那覇に寄港後，黒船４隻で浦賀に来航し開国を要求**

☆久里浜(くりはま)に上陸し，**フィルモア大統領の国書**を提出。12代将軍家慶は国書を正式に受け取り，翌年の回答を約束。

☆「**泰平(たいへい)の　眠りをさます　上喜撰(じょうきせん)　たった四(し)はいで　夜もねむれず**」

**ロシア極東艦隊司令長官プチャーチン，長崎に来航し開国と国境画定(かくてい)を要求**

**1854年　ペリー，黒船７隻で神奈川沖に最来航**

☆横浜に上陸し，**13代将軍家定と日米和親条約を締結**

**プチャーチン，伊豆国下田(しもだ)に再来航**

☆**日露和親条約**を締結。

---

# ２　開国とその影響

## ①和親条約の締結（1854年～）

A　**日米和親条約〔神奈川条約〕（1854年，13代家定・老中首座阿部正弘）**

あ　調印（横浜村にて）

日本全権⇒林韑（はやしあきら）〔林大学頭（だいがくのかみ）〕

**米国全権⇒ペリー**

い　内容

・日本と合衆国との永世不朽（えいせいふきゅう）の和親

・薪水・食糧の供給と難破船（なんぱせん）乗組員の救助

**・下田・箱館の開港**

・領事（りょうじ）駐在の許可

**・アメリカに対する片務的最恵国待遇（へんむてきさいけいこくたいぐう）**

う　結果

**寛永期以来の鎖国体制が崩壊**

B　日英和親条約（1854年）

C　**日露和親条約（1854年）**

あ　調印（下田にて）

日本全権⇒川路聖謨（かわじとしあきら）

**露国全権⇒プチャーチン**

い　内容（全９条）

**・下田・箱館・長崎の開港**

**・択捉島以南を日本領，得撫島（うるっぷとう）以北をロシア領とする**

**・樺太は両国人雑居の地とし境界を定めず**

う　結果

**北方（ほっぽう）の国境が画定（かくてい）**，幕府は蝦夷地を再直轄（1855年）。

D　日蘭和親条約（1855年）

---

## ②安政の改革（1854年～，老中阿部正弘の挙国一致策）

**ペリー来航を朝廷に報告，諸大名・幕臣へも諮問。**

**☆朝廷の権威が高まり，親藩・外様にも政治発言の機会が発生。**

A　**親藩・外様の政治参与（雄藩連合の発生）**

**徳川斉昭（前水戸藩主），松平慶永〔春嶽〕（越前藩主），島津斉彬（薩摩藩主），山内豊信〔容堂〕（土佐藩主），伊達宗城（宇和島藩主）**ら。

B　有能幕臣の登用

**江川太郎左衛門〔坦庵〕**，川路聖謨，井上清直，岩瀬忠震，**勝海舟〔義邦〕**ら。

C　**国防の強化**と**洋学の研究**

**1853年**　江戸湾品川沖に**台場**を築造

**大船建造の禁を解き**諸藩の洋式軍艦建造を奨励

**1855年**　長崎に**海軍伝習所**を設置

☆勝海舟・榎本武揚らが参加。

蛮書和解御用を洋学所と改称

**1856年**　洋学所を**蕃書調所**と改称

江戸に**講武所**を設置

☆旗本・御家人に武術・砲術などを教える。

**伊豆国韮山に反射炉を建設**

☆韮山代官**江川太郎左衛門**による。

1858年　江戸に**種痘所**（のちの医学所）設置を許可

☆**伊東玄朴**らによる。

---

## ③通商条約の締結（1858年～）

A　経過

**1856年**　**アメリカ総領事ハリス**が下田の玉泉寺に着任

☆阿部正弘にかわる**老中首座堀田正睦**と交渉開始。

☆**アロー戦争〔第二次アヘン戦争〕（○英・仏vs清●）**の天津条約を背景に，ハリスが幕府を説得。

**1858年**　堀田正睦，条約勅許を得るため上洛

☆**孝明天皇**や一橋派の諸大名の反対により挫折。

南紀派の**井伊直弼（彦根藩主）**が**大老**に就任，**無勅許のまま独断で条約に調印**（＝違勅調印）。

B　**日米修好通商条約（1858年）**

あ　調印（神奈川沖の米艦(べいかん)にて）

日本全権⇒井上清直(きよなお)，岩瀬忠震(ただなり)

**米国全権⇒ハリス**

い　内容

・**日本大君(たいくん)〔将軍〕と合衆国の親睦(しんぼく)を約束**

・下田・**箱館**の他に**神奈川（のち横浜に変更）・長崎・兵庫（のち神戸に変更）・新潟を開港**

☆神奈川開港6カ月後に下田は閉鎖。

・江戸・大坂の開市(かいし)（＝商取引の許可）

・**通商は自由貿易とする**

・**協定関税〔関税自主権の欠如〕**

☆別冊の**貿易章程(しょうてい)**で規定，従価税方式。

・**内外貨幣の同種同量による通用**

・開港場に**居留地(きょりゅうち)**を設置し一般外国人の国内旅行を禁止

・居留地内の**領事裁判権の承認〔治外法権の承認〕**

・1872年以後の改正を許可

う　結果

1859年より横浜・長崎・箱館で貿易開始。**不平等条約のため，後年(こうねん)明治政府が改正に苦心することとなる。**

え　批准(ひじゅん)

**1860年**，外国奉行**新見正興(しんみまさおき)**・目付小栗忠順(おぐりただまさ)らがポーハタン号で渡米。ブカナン大統領に謁見(えっけん)し，批准書を交換した。

☆**勝海舟**艦長の**咸臨丸(かんりんまる)**が随行，**日本人の手による太平洋横断に初めて成功。**

☆福沢諭吉（中津藩士）らの他に，通訳としてジョン万次郎(まんじろう)〔中浜万次郎〕（土佐藩出身の漂流民）も渡米した。

C　**安政の五カ国条約（1858年）**

**同年，オランダ・ロシア・イギリス・フランスとも同様の不平等条約を締結。**

## ④貿易〔居留地貿易〕の開始（1859年〜）

A　**貿易港**

**横浜・長崎・箱館**

**☆横浜が全体の80%以上を占める。**

B　取引

居留地で外国商人と日本商人〔売込商（うりこみしょう）・引取商（ひきとりしょう）〕が，おもに銀貨を用いて行う。

C　**相手国**

**イギリス中心**

☆アメリカは南北戦争（1861年〜65年）のため後退。

D　**輸出品**

**生糸・茶**・蚕卵紙（さんらんし）・海産物などの農水産物やその加工品。

**☆生糸が全体の80%を占め，大幅な輸出超過傾向。**

E　**輸入品**

**毛織物・綿織物**・武器・艦船（かんせん）・綿糸（めんし）などの完成品。

---

## ⑤貿易の影響

A　生産構造の変化

あ　**輸出品（生糸・茶）の生産力が向上**

輸出産業である製糸業におけるマニュファクチュア経営は発達したが，その影響で繭（まゆ）価（けんか）が高騰（こうとう）し，**絹織物業は衰退**した。

い　**輸入品（綿織物・綿糸）業界の衰退**

**綿織物業・紡績業・綿作（めんさく）は著しく衰退**した。

B　流通機構の混乱

あ　自由貿易の開始による**在郷商人の台頭**

生糸の八王子〜横浜間など，生産地と開港場を結ぶ新しい流通ルートを開拓。

い　**五品江戸廻送令**（1860年）

**雑穀・水油・蠟・呉服・生糸**の５品は，**必ず江戸の問屋を経て輸出するよう命令。**

☆**物価抑制と貿易統制・問屋商人の保護をはかる。**外国商人の反対もあり，在郷商人はこの廻送令を無視したが，生糸以外の商品に関しては一時的な効果があった。

C　**金貨の流出**

**日本と外国の金銀比価の相違（日本＝１：５，外国＝１：15）**により10万両以上が流出。かわりに洋銀〔メキシコドル〕が流入。

☆**1860年**，質・量ともに著しく劣る小判の鋳造により流出は防いだが，この「**万延貨幣改鋳**」**で物価上昇に拍車をかけてしまった。**

D　**激しい物価上昇**

**急激な輸出超過による国内物資の不足と万延貨幣改鋳が原因。**

☆ペリー来航以来，人足徴発・**安政の大地震**（1854年～55年）・安政のコレラ（1858年）などに苦しんできた下級武士・庶民をさらに困窮させた。

E　百姓一揆・打ちこわしの活発化

F　**攘夷運動（＝外国人排斥運動）**の激化

1860年　ヒュースケン（オランダ人）暗殺事件

☆アメリカ総領事ハリスの通訳が，薩摩浪士らに殺害される。

1861年　ロシア軍艦対馬占拠事件

☆ロシア軍艦ポサドニック号が対馬の半植民地化をはかるが，イギリスの協力をあおぎ幕府はこれを防ぐ。

**東禅寺事件**

☆水戸浪士が高輪東禅寺のイギリス仮公使館を襲撃。

**1862年**　**生麦事件**⇒翌年の薩英戦争へと発展

☆**薩摩藩島津久光の行列を横切ったイギリス人が殺傷される。**

**イギリス公使館焼打ち事件**

☆長州藩士高杉晋作・井上馨・伊藤博文らが，品川御殿山に建築中のイギリス公使館を焼打ち。

## ３　江戸幕府の滅亡

### ①幕閣の分裂⇒外交政策と将軍継嗣（けいし）問題（13 代家定（いえさだ）に子がないため）で対立。

A　**南紀派（なんきは）**

あ　外交政策

**和親外交（開国論）**

い　将軍継嗣

血統を重視し，**徳川慶福（よしとみ）（紀伊藩主）**を推挙。

う　構成

**井伊直弼（なおすけ）（彦根藩主）ら譜代大名・旗本。**

**☆幕府独裁体制の復活をめざす。**

B　**一橋派（ひとつばしは）**

あ　外交政策

**強硬外交（攘夷論）**から，のち和親外交（開国論）へと次第に傾（かたむ）く。

い　将軍継嗣

年長・英明・人望を重視し，**一橋慶喜（ひとつばしよしのぶ）（前水戸藩主徳川斉昭（なりあき）の子）**を推挙。

う　構成

**徳川斉昭（前水戸藩主）**，徳川慶勝（よしかつ）（尾張藩主），**松平慶永（よしなが）〔春嶽（しゅんがく）〕（越前藩主），島津斉彬（なりあきら）（薩摩藩主），山内豊信（やまのうちとよしげ）〔容堂〕（土佐藩主），伊達宗城（むねなり）（宇和島藩主）ら親藩・外様の有力大名。**

**☆雄藩連合（ゆうはんれんごう）による幕政改革をめざす。**

C　中間派

**老中首座堀田正睦（まさよし）**（佐倉藩主）

**☆条約勅許を求めるが，孝明天皇や一橋派の反対により挫折（ざせつ）し失脚。**

## ②大老井伊直弼の独裁（1858年～60年）

A　**井伊直弼が大老に就任（1858年）**

あ　**日米修好通商条約を無勅許のまま調印（＝違勅調印）**

☆本来別個の思想であるはずの**尊王論**と**攘夷論**が結びつく（＝**尊王攘夷論**）。

い　**14代将軍として徳川家茂〔慶福〕を擁立**

う　水戸藩への戊午の密勅降下

☆違勅調印に憤激した**孝明天皇**が，幕府を越えて直接水戸藩に攘夷の密勅を降下。井伊直弼はこれに激怒，安政の大獄の契機となる。

B　**安政の大獄（1858年～59年，反井伊派の弾圧⇒**老中間部詮勝が主導）

あ　**一橋慶喜**，**徳川斉昭**，徳川慶勝，**松平慶永〔春嶽〕**，**山内豊信〔容堂〕らに隠居・謹慎を命じる**

い　川路聖謨，岩瀬忠震ら開明的な幕臣も処罰

う　**橋本左内（越前藩士）**，**吉田松陰（長州藩士）**，頼三樹三郎（儒学者，頼山陽の子）**らを処刑**

☆梅田雲浜（若狭小浜藩士）も獄死。

C　**桜田門外の変（1860年）**

通商条約の違勅調印・将軍継嗣問題・安政の大獄に憤激した**尊攘派の水戸浪士らが，江戸城桜田門外で井伊直弼を殺害。**

☆**全国に衝撃，幕府の権威は失墜し独裁体制が崩壊。**

---

## ③公武合体運動の展開（1860 年〜64 年ごろ）

**公武合体論＝朝廷（公家）と幕府（武家）の融和**により，幕藩体制の再建・強化をはかろうとする思想。

A　**幕府主導の公武合体運動＝和宮降嫁（1861 年）**

**老中安藤信正**・老中首座久世広周の公武合体策。

1861 年　**皇女和宮（孝明天皇の妹），14 代家茂への降嫁**が決定。

☆岩倉具視ら公武合体派の公卿が孝明天皇を説得，江戸へ下り翌年結婚。

**1862 年　坂下門外の変**

☆**和宮降嫁に憤激した尊攘派の志士が，江戸城坂下門外で安藤信正を襲撃。**負傷した安藤は失脚，**幕府主導の公武合体運動は挫折。**

B　**雄藩主導の公武合体運動＝文久の改革（1862 年）**

**島津久光**（薩摩藩主島津忠義の父）**の公武合体策。**

あ　**鹿児島から上洛，孝明天皇から幕政改革の勅命を受ける。**

☆**寺田屋事件**で藩内尊攘派（有馬新七ら）を粛清。

い　勅使**大原重徳**を奉じて江戸に東下，**文久の改革**を実施。

・**将軍後見職⇒一橋慶喜**

・**政事総裁職⇒松平慶永〔春嶽〕（越前藩主）**

・**京都守護職⇒松平容保（会津藩主）**

☆**参勤交代制の緩和（３年１勤）と妻子人質制の廃止**，西洋式軍制の採用，オランダへの留学生派遣（榎本武揚・西周・津田真道ら）などを実施。

う　**江戸からの帰途，横浜で生麦事件を起こす。**

☆翌年，薩英戦争へ発展。

---

## ④尊王攘夷運動の激化（1862年～63年）

**尊王攘夷論**＝後期水戸学の天皇崇拝思想（**尊王論**）と，開国反対・外国人排斥の思想（**攘夷論**）が，井伊直弼の違勅調印を契機に**反幕運動**として結びついたもの。

☆薩摩・長州・土佐などの雄藩も，下級武士・“草莽の**志士**”たちによる尊攘運動を一面で抑制・一面で利用したことから複雑な政争が展開した。

A　**長州藩尊攘派の京都制圧**　　　　（1862年）

藩主毛利敬親は，藩士長井雅楽の“航海遠略策”を容れ，開国策による公武合体推進の立場をとっていたが，**高杉晋作・桂小五郎〔木戸孝允〕・久坂玄瑞らの尊攘派が台頭し，藩論を転換**した。

☆島津久光（薩摩藩主の父）が文久の改革のため江戸に下る間に，急進派の公家**三条実美**や，土佐藩の武市瑞山〔半平太〕と結び，公武合体派を抑え朝廷を動かした。

⇒京都ではいわゆる“天誅”事件が相次ぐ。

B　勅使三条実美，江戸に東下　　　　（1862年）

公武合体派（薩摩藩主導）の勅使大原重徳に続き，尊攘派（長州藩主導）として，**幕府に攘夷の決行を迫る**。

C　**14代家茂の上洛**　　　　　　　　（1863年３月）

３代家光以来の将軍上洛。**不本意にも５月10日の攘夷決行を孝明天皇に確約**。

D　**長州藩外国船砲撃事件〔下関事件〕**（1863年５月）

**長州藩は**５月10日以降，関門海峡を通過する米・仏・蘭船に対し**単独で攘夷を決行**。米・仏は即座に艦隊を派遣して報復。

☆藩兵の軍事力の低さに失望した**高杉晋作**は，正規の藩兵（＝正兵）とは異なる志願制の**奇兵隊**など農商民を加えた諸隊の組織を決意。

## ⑤攘夷運動の挫折

A　**薩英(さつえい)戦争**　　　(1863年7月)

前年の**生麦事件の報復**のため，**イギリス艦隊が鹿児島湾に侵入**して交戦。双方ともに被害を受け講和。**薩摩藩は**軍備近代化の必要性と**攘夷の不可能を悟る。**

**☆イギリスも薩摩藩の実力を評価，両者接近の契機となる。**

B　**八月十八日の政変(1863年)**

**天皇＋公武合体派(公武合体派公家と結ぶ幕府・薩摩藩・会津藩)の巻き返し。**

☆過激な攘夷は天皇の本意ではないことを強調し，**長州藩の御所(ごしょ)警備を解任。**三条実美・沢宣嘉(さわのぶよし)らの**尊攘派公家は長州藩に逃れる(＝七卿落(しちきょうお)ち)。**

☆孝明天皇による攘夷祈願(きがん)の大和行幸(ぎょうこう)計画も中止となる。

C　**天誅組(てんちゅうぐみ)の変**　　　**(1863年)**

尊攘派公家の中山忠光(ただみつ)・**吉村寅太郎(とらたろう)(土佐浪士)**らが大和国五條(ごじょう)の代官所を襲撃。

D　**生野(いくの)の変**　　　**(1863年)**

尊攘派公家の沢宣嘉・**平野国臣(くにおみ)(福岡浪士)**らが但馬国(たじまのくに)生野の代官所を襲撃。

E　**天狗党の乱**　　　**(1864年)**

**水戸藩尊攘派**の藤田小四郎(こしろう)(東湖の子)・武田耕雲斎(こううんさい)らが筑波山(つくばさん)で挙兵。攘夷延期を不服とし上洛をめざすが，追討軍に追われ加賀藩に降伏。

F　**池田屋事件**　　　**(1864年)**

巻き返しをはかり**京都**に集合した尊攘派の志士を，京都守護職(会津藩主松平容保)配下の**新撰組(しんせんぐみ)**(**近藤勇(いさみ)**・土方歳三(ひじかたとしぞう)ら)が襲撃。

G　**禁門(きんもん)〔蛤御門(はまぐりごもん)〕の変(1864年)**

**池田屋事件を契機に京都に攻め上(のぼ)った長州藩は**，御所内外の戦いで幕府方〔薩摩藩・会津藩・桑名藩〕に敗れたうえ，**朝敵(ちょうてき)の汚名(おめい)を着せられた。**

☆**真木和泉(まきいずみ)(久留米(くるめ)藩士)，久坂玄瑞(長州藩士)らは自刃(じじん)**。京都は戦火に包まれる。

H　**四国艦隊下関砲撃事件〔下関戦争〕（1864年）**

前年５月10日の報復として，**イギリス公使オールコックが主導する英・米・仏・蘭**の四国連合艦隊が下関を砲撃。

☆列国は貿易のさまたげになる攘夷派に一撃を加える機会を狙っていた。

☆惨敗した**長州藩もついに攘夷の不可能を悟り，イギリスとの接近の契機となる。**

I　**第１次長州征討〔第１次幕長戦争〕（1864年，**征長総督＝前尾張藩主徳川慶勝）

幕府が禁門の変を理由に長州征討の勅命を受けて出兵。**下関戦争の結果，保守派が復権した長州藩上層部は尊攘派を弾圧，戦わずして幕府に恭順の態度をとった。**

☆翌年土佐藩でも尊攘派の武市瑞山らを弾圧，**攘夷運動は完全に挫折**した。

---

## ⑥列強の動き

A　**英・仏の対立**

あ　**イギリス**

オールコックを引き継いだ**公使パークスが幕府の無力を見抜き薩摩藩・長州藩に接近**。天皇を中心とする**雄藩連合政権**の実現を期待。

い　**フランス**

**公使ロッシュがあくまで幕府支持の立場をとり**，財政・軍事的援助を続ける。

B　**条約勅許（1865年）**

英・米・仏・蘭の４国が共同で兵庫沖に艦隊を派遣し威嚇。しかし，**兵庫開港は未だ認めず。**

☆孝明天皇の条約勅許により，攘夷論は公的には全滅した。

C　**改税約書（1866年）**⇒パークスが起草

下関戦争の賠償金減免・**兵庫開港未勅許の代償**として，関税率平均20％の従価税を一律５％の従量税として引き下げ，さらに自由貿易をさまたげる諸制限を撤廃した。

☆高価格品などの**輸入が激増**，輸出超過時代から**輸入超過時代へ（1867年～）**。

---

## ⑦倒幕〔討幕〕運動の展開

A　**薩摩藩**

**西郷隆盛・大久保利通**(としみち)らを中心に攘夷思想を放棄。**イギリスの支援**を背景に，藩論を公武合体から**武力討幕**に転換。**朝廷の公卿岩倉具視**(いわくらともみ)**らと結ぶ。**

B　**長州藩**

1865年，**高杉晋作**が長府(ちょうふ)で挙兵，領内の豪農・豪商と結び保守派から主導権を奪回。**桂小五郎〔木戸孝允〕・伊藤博文**(ひろぶみ)**・井上馨**(かおる)**・山県有朋**(やまがたありとも)らが再び台頭，攘夷思想を放棄し，藩論を幕府への恭順から**倒幕**に統一。

☆イギリスに接近し，**大村益次郎**(ますじろう)らの指導のもとに軍事力の強化に努める。

C　**薩長同盟〔連合〕**（1866年，京都薩摩藩邸において）

**土佐藩士坂本龍馬**(りょうま)**・中岡慎太郎の斡旋**(あっせん)で，小松帯刀(たてわき)・**西郷隆盛（薩摩藩）**と**木戸孝允（長州藩）**が**密約**を締結。相互の援助を誓い**倒幕派の主力を形成**した。

☆薩摩藩は，来(きた)るべき第２次長州征討に備え，長州藩の長崎での洋式武器購入（イギリス商人グラヴァーから）を援助。

D　**第２次長州征討〔第２次幕長戦争〕（1866年）**

幕府は長州藩に対し，第１次征討の始末として領地削減などを命じたが，藩論を一変した長州藩は応じなかった。そこで幕府は第２次征討を宣言したが，**薩長同盟の密約により薩摩藩は不参加。新式武装の長州藩が幕府軍を撃破した。**

☆流通の停滞により米価が高騰し，江戸・大坂で打ちこわしが多発する中，**14代家茂が大坂城で急死，幕府軍不利のまま征討中止。**

## ⑧民衆の動き

A　**世直し一揆**・打ちこわしの激増

開国にともなう物価上昇や政局をめぐる抗争は社会不安を増大させ，世相を険悪にした。

☆**幕府・公議政体派（土佐藩・越前藩）・武力倒幕派（薩摩藩・長州藩）**各陣営に，支配体制の再編を急がせる。

☆1866年の一揆発生件数は，江戸時代を通じ最多となる。

B　社会不安の増大

あ　**黒住教**（くろずみきょう）・**天理教**（てんりきょう）・**金光教**（こんこうきょう）など新宗教の隆盛

☆明治期に**教派神道**（きょうはしんとう）となる。

い　伊勢神宮への**御蔭参り**（おかげまいり）の大流行

う　**“ええじゃないか”**の集団乱舞（らんぶ）（**1867年**７月〜）

お札降り（ふだふ）などを契機に三河国で発生。以後，東海・畿内一帯などに拡大。翌年春まで続き，**支配秩序を混乱に陥れた**（おとしい）。

---

## ⑨江戸幕府の滅亡

A　**徳川慶喜，京都で15代将軍に就任（1866年）**

☆フランス公使ロッシュの意見により，洋風の職制・軍制を整備（＝慶応の改革）。

B　**孝明天皇の急死　（1866年）**

☆**過激な討幕を好まず公武合体の立場をとり続けた天皇の急死は，幕府にとって大きな痛手となった。**

C　明治天皇即位　（1867年）

D　**“ええじゃないか”発生　（1867年７月～）**

E　**大政奉還（たいせいほうかん）の上表（じょうひょう）　（1867年10月14日）**

あ　**前土佐藩主山内豊信〔容堂〕が15代将軍慶喜に建白。**

☆坂本龍馬の“船中八策（せんちゅうはっさく）”を手本に**後藤象二郎（しょうじろう）**が藩論を統一。

い　**京都二条城において，慶喜が明治天皇に政権を奉還。**

☆慶喜の狙いは，倒幕派の機先を制し，支配体制を再構築することにあった。

F　**討幕の密勅　（1867年10月14日）**

公家の**岩倉具視らが薩長の武力倒幕派と結び画策（かくさく）**したが，空振（からぶ）りに終わる。

G　坂本龍馬・中岡慎太郎暗殺事件　（1867年11月）

武力倒幕派もしくは幕府見廻組（みまわりぐみ）の仕業（しわざ）とされるが不明。

H　**王政復古の大号令　（1867年12月９日）⇒武力倒幕派の画策**

あ　朝廷でクーデタを決行し**天皇中心の維新政府を樹立，将軍・摂政・関白を廃止。**

い　**三職（さんしょく）**（**総裁（そうさい）**１名・**議定（ぎじょう）**10名・**参与（さんよ）**20名）を設置

☆総裁には**有栖川宮熾仁親王（ありすがわのみやたるひとしんのう）**が就任。

I　**小御所（こごしょ）会議**〔三職会議〕　**（1867年12月９日）⇒武力倒幕派の画策**

**徳川慶喜の辞官納地（じかんのうち）（内大臣の辞退・領地の一部返上）を決定**したが，公議政体派の山内豊信〔容堂〕（前土佐藩主）・松平慶永（前越前藩主）らは反対。

☆**旧幕府方はこれに憤激**，徳川慶喜は二条城から大坂城へ引き上げ，新政府と軍事的に対立することとなった。

---

〈***Note***〉

# 第 17 講　確認テスト

1　1798 年，最上徳内とともに択捉島を探査し，「大日本恵土呂府」の標柱を立てた人物とは？

①大黒屋光太夫　②近藤重蔵　③間宮林蔵　④高田屋嘉兵衛

2　1808 年，長崎でフェートン号事件を起こした国とは？

①オランダ　②ロシア　③イギリス　④アメリカ

3　1856 年，伊豆国に反射炉を建設した韮山代官とは？

①阿部正弘　②江川太郎左衛門　③勝海舟　④伊東玄朴

4　日米修好通商条約が締結された年は？

①1853 年　②1854 年　③1856 年　④1858 年

5　幕末以降，日本の最大の輸出品となった物は？

①生糸　②茶　③蚕卵紙　④綿織物

6　1860 年に鋳造された小判とは？

①慶長小判　②元禄小判　③正徳小判　④万延小判

7　一橋慶喜の父にあたる前水戸藩主とは？

①徳川慶福　②徳川家茂　③徳川斉昭　④徳川慶勝

8　1862年，江戸城坂下門外で尊攘派の志士たちに襲撃された老中とは？

①堀田正睦　②間部詮勝　③久世広周　④安藤信正

9　1862年，薩摩藩の島津久光が主導した改革を何というか？

①天保の改革　②安政の改革　③文久の改革　④慶応の改革

10　1863年，尊攘派公家の沢宣嘉とともに生野の変を起こした福岡浪士とは？

①吉村寅太郎　②平野国臣　③真木和泉　④久坂玄瑞

11　第２次長州征討が行われた年は？

①1863年　②1864年　③1866年　④1867年

12　1867年10月14日に大政奉還が行われた場所とは？

①江戸城　②大坂城　③二条城　④京都御所

解答

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 1　② | 2　③ | 3　② | 4　④ | 5　① |
| 6　④ | 7　③ | 8　④ | 9　③ | 10　② |
| 11　③ | 12　③ | | | |